

感染症迅速検査について

～ピットフォールに落ちないための技術と知識について～

◎中村 政敏¹⁾

鹿児島大学病院 検査部¹⁾

感染症迅速検査（以下、迅速検査）は微生物学分野において、リアルタイムに結果が得られ、感染症の初期治療や感染対策に大きく貢献している。また迅速検査では微生物の抗原や毒素だけではなく、通常塗沫・培養検査では同定できないウイルス感染症診断補助が可能である。さらに近年、類似症状を示すウイルス感染症の迅速診断の鑑別と患者の採取時の負担軽減を目的に多種複数ウイルス抗原の同時検出可能なキットも発売されている。

迅速診断キットに求められる要件として次の7点が挙げられる。①検体の前処理が不要、②特殊な機材が不要、③操作が簡便、④目視判定が可能、⑤TATが短く早期治療開始に役立つ、⑥試薬管理がしやすい、⑦検出感度・特異度に優れている。これらの条件に見合う測定法としてイムノクロマトグラフィー法（以下ICA）がある。ICAを適切に扱うには技術と知識が必要である。

技術面において検体採取と結果判定を例として挙げる。検体採取については採取部位の選択、採取手技が重要である。ICAの場合、高粘調度の検体はメンブレン内の移動が阻止されたり、血液混入の場合は偽陰性となる可能性があることが知られている。結果判定については目視判定の為、訓練が必須であり判定困難な場合には複数人で確認することも重要である。また近年では目視を解消する為、機械による判定も実施できるようになった。

知識面においてはICAの原理を理解して添付文書を熟読すること、患者背景を知ることが重要である。添付文書にはワクチンの影響を考慮するものとして肺炎球菌尿中抗原検査はワクチン接種後5日以降に実施することや判定には原因ウイルス以外の各種交差反応などについて記載されている。また発症直後では偽陰性の可能性があり、経過とともに陽性率が変化することや他の臨床検査データとの総合的な判断が必要であることも知識として重要である。

このように迅速検査は簡便である反面、ピットフォールに落ちないための技術と知識が重要である。本セッションを通じて迅速検査に関する不安を少しでも解消できる一助となれば幸いである。